

平成23年11月15日

5年生保護者の皆様へ

広島市立千田小学校  
校長 吉竹 邦昭

## 「基礎・基本」定着状況調査の結果について

### 1. 調査のねらい

この調査は、以下のようなねらいのもと、6月14日に県内一斉に実施されました。

学習指導要領に示されている目標や内容に基づき、「読み・書き・計算」などの基礎的な内容の定着状況を把握する。

思考力・判断力・表現力などの定着状況を把握する。

児童の生活や学習に関する意識や実態を把握する。

以上のことを通して、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。

### 2. 調査対象学年と教科

5年生を対象に、国語・算数における4年生までの定着状況の調査と、生活と学習に関する意識・実態についてのアンケート調査が行われました。

### 3. 教科の通過率について

		広島県平均(%)	広島市平均(%)	千田小平均(%)
国語	教科全体	78.5	77.3	83.5
	聞くこと	83.5	82.5	92.8
	書くこと	87.9	86.5	93.9
	読むこと	77.3	77.3	82.2
	言語事項	74.5	72.6	77.9
算数	教科全体	77.8	76.2	83.2
	数と計算	81.7	80.7	86.8
	量と測定	65.2	63.0	66.9
	図形	74.3	70.9	84.4
	数量関係	86.0	85.4	92.5

#### 国語について

教科全体の通過率は広島県・広島市の平均を上回っていました。

・「聞くこと」の領域は、放送を聞き、必要な内容を聞き取る問題でした。どの設問に対しても県・市平均を大きく上回っていました。国語だけでなく、いろいろな場面において友達や先生の話の要点を聞き取ることの指導の成果がよく表れていました。友達の考えをよく聞き自分の考えを深める学習を、これからも継続して行いたいと思います。

・「書くこと」についても、平均を上回る通過率でした。本校では、国語科だけでなく社会科や算数科など、どの教科においても自分の意見を文章で表現することに重点を置いています。

また宿題で日記を毎日書くことによって、多くの子が書くことに抵抗なく取り組むことができています。それが高い通過率につながっていると思われます。今後はさらに相手や目的に応じて書き分けることができるよう指導していきたいと思います。

・「読むこと」の領域でも、県・市平均より高い通過率でした。ただし、説明的文章において、段落相互の関係を問う問題の通過率が65%なのは課題があると思われます。内容をとらえ、文章の構成を考える学習に力を入れていきます。

・「言語事項」の領域においても県・市平均をやや上回っていましたが、前年度までに学習した漢字の定着が不十分な児童がいることが分かりました。日々の漢字の指導の充実を図るとともに、日常的に漢字テストを取り入れるなどして、漢字の力を伸ばしていきたいと思えます。また、ローマ字については読む・書くともに低い通過率でした。中学年の学習内容ですが、高学年においても継続して指導するよう努めていきます。国語辞典の引き方については高い通過率でした。日頃から辞書を活用していることで引き方が定着しているのだと考えます。また、主語述語の関係についても高い通過率でした。過去の千田小学校の児童の結果から、特に主語述語など文法の学習に力を入れていたことが通過率に表れていました。

国語科の調査票から分かる結果は以上の通りでしたが、生活などについての調査票を見ると、「国語の授業を楽しみにしています。」に肯定的回答をしている児童が61.4%でした。この結果を真摯に受け止め、より一層子どもたちが意欲的に取り組めるような国語科の授業作りをしていきたいと思えます。また、「1ヶ月に何冊くらいの本を読みますか。」に対して、「読んでいない」「3冊より少ない」と回答した児童が36.4%もいました。図書室の利用を促したり、読書指導を充実させたりして個々の読書量を増やす取り組みに努めたいと思えます。

#### 算数について

本校は、教科全体でも領域別でも、県や市の平均通過率を上回っていました。

・「数と計算」領域では、帯学習(千田タイム)や少人数指導の成果が表れ、わる数が2位数のわり算や、小数の計算に関しても県の平均を上回り、基本的な計算力は高まってきているといえます。

・「量と測定」領域の、重さやかさの単位については、量の感覚がまだ十分身につけていない児童がみられました。また、複合図形の面積を求める問題や、「図形」領域の、示された条件から図形を判断する問題は、県の平均は上回っているものの、通過率が低く、論理的に考えを進めていく力を育てていく必要があると思えます。

今後は、児童の考えを様々な方法で表現する授業や、具体的な操作活動や話し合い活動を通して、筋道を立てて考えていく力を育てる授業を、さらに充実させていきたいと思えます。また、これからも帯学習を計画的に行い、計算技能のさらなる習熟を図っていききたいと思えます。

#### 生活と学習に関する意識、実態について

・「毎日朝食をとる」「外に出て遊んだり体を動かしたりする」などの基礎的な生活習慣は、ほとんどの児童が身につけています。その他の生活習慣の定着状況は、本校で行っている「いきいき生活調べ」の結果でお知らせしている通りですが、やはり就寝時刻が定まらず、睡眠時間が短い児童が増えてきています。集中して意欲的に学習に取り組むためにも、十分な睡眠時間を確保し、体調を管理することが望まれます。

内 容	広島県 (%)	千田小 (%)
分からないことはそのままにせず，分かるまで努力している	78.9	83.0
ものごとを解決するとき，たぶんこうではないかと予想している	85.0	93.2
なぜそうなるのか，理由をつけて話している	67.5	81.8
自分には，よいところがある	73.9	76.1
自分のよさはまわりの人から認められていると思う	58.0	54.5

・学習面では、「分からないことをそのままにせず，分かるまで努力している」や「ものごとを解決するとき，たぶんこうではないかと予想している」が県・市平均を上回っていました。学習習慣や思考だけでなく，教科学習の中でも「なぜそうなるのか」の理由付けをしながら発表する姿がたくさん見られ，自分なりの根拠をもとに，解を追求しようとする態度が育っているようです。

・気がかりな点として、「自分には，よいところがある」と思っているが，自分のよさはまわりの人から認められていると思っている児童が少ないことです。自己を肯定的にとらえ，自信をもって活動してほしいと思っています。そのためには，達成感や充実感を味わわせ，自らの有力感（できる感）や有用感（役立つ感）を実感できる場を増やししながら，お互いのよさを認め合えるような集団を形成していきたいと思えます。

また，周りの大人が，努力していることやよいところを見つけ，賞賛や励ましをすることが大切です。児童が自分に自信をもち，何事にも意欲的に取り組んでいくことができるように保護者の皆様と連携していきたいと思えます。